ボーリング柱状図

調　査　名	早良(重留3丁目)外地区土質調査業務委託
事業・工事名	

ボーリングNo.	5	0	3	0	2	2	2	4	0	0	0

シートNo.

ボーリング名	大字金武No.2	調査位置	福岡市西区大字金武地内			北緯	33° 31' 12.0000"
発注機関	福岡市道路下水道局建設部西部下水道課			調査期間	平成27年11月30日～平成27年12月 1日	東経	130° 18' 41.0000"
調査業者名	地盤コンサルタントNOGAMI 電　話 092-629-2364	主任技師	野上文幸	現場代理人		コア鑑定者	野上文幸
ボーリング責任者	吉田安昭						
孔口標高	82.84m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	0°北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	0° 水平 0° 鉛直 90°
使用機種	試錐機	東邦D-0	ハンマー落下用具	半自動型			
総掘進長	9.00m	エンジン	ヤンマーNFD10-K	ポンプ	BG-3C		

標尺 m	標高 m	層厚 m	深度 m	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
	82.59	0.25	0.25		盛土(礫	灰			上部5cmはアスファルト舗装(黒)。以下は砕石(灰)
	81.89	0.70	0.95		盛土(シルト混り砂)	淡褐			まさ土による盛土で、シルト混り砂状。φ10mm以下の礫が少量混じる。
1									
2					玉石混り砂礫	暗灰～暗褐			玉石や礫は最大L=20cmで採取される。非常に硬質な花崗岩礫を主とし、片岩礫等混じる。多くはφ50mm以下の円～亜円礫で、所により密集する。基質はシルト質砂状で良く締まった状態である。
3	79.59	2.30	3.25						
4					風化花崗岩	淡褐灰			岩組織は明瞭に残す。コアは軟質な棒状として採取されるが、4m付近まではやや強い指圧で崩れシルト質砂から砂状となる。4m以下は岩盤状を呈しているが、ハンマーの軽打で容易に砕ける程度の硬さである。石英はφ5mm以下の小礫～粗砂状で残る。
5									
6									
7									
8									
9	73.84	5.75	9.00						
10									
11									
12									
13									
14									

粒度試験による土質区分	孔内水位／測定月日	標準貫入試験 深度 m	10cm毎の打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量	N値
		1.15	4	8	12	24/30	24
		1.45					
		2.15	22	19	9/5	50/25	50
	11/30 2.69	2.40					
		3.15	7	13	15	35/30	35
		3.45					
		4.05	29	21/7		50/17	50
		4.22					
		5.05	50/7			50/7	50
		5.12					
		6.00	50/9			50/9	50
		6.09					
		7.15	40	10/2		50/12	50
		7.27					
		8.05	50			50/10	50
		8.15					
		9.00	50/3			50/3	50
		9.03					

原位置試験 深度 m	試験名及び結果	試料採取 深度 m	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
4.50	現場透水 k=3.01E-6	3.25	p2-1	Ⓟ	比重 含水 粒度	11/30
5.00		3.45				
						12/1

・本資料は、工事等により現況と整合しない場合があり、現在の位置関係や地質状況などを特定するものではありません。
・本資料は、参考データとして利用し、現在の地質状況は、再度ボーリングを行う等して確認をお願いします。